

謹賀
新年

新年あけましておめでとうございます。和食ダムの完成に向けて今年もせい
いっぱい頑張っていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。



和かつば

和食ダム 現在の様子

これまでに引き続き左岸側の再掘削を進めており標高95mまでが完了し、次は**標高90m地点**に向けて掘削しているところです。(1月末現在で掘削の進捗率53.5%)

新残土処理場では、着々と整備が進み、現在は最上段の盛土を行っています。今後は、順次写真左のように法面を整形した後に、法面小段に排水路を施工する予定です。



右岸上流側から掘削面を望む



新残土処理場の全景写真



新残土処理場の法面整形施工

ダム建設設備紹介 (濁水処理設備)

和食ダムの建設に関わる設備について紹介します。ダム建設に関わる作業によって濁水が発生しますが、もちろん直接川へ排水することは環境に悪影響を与えるためできません。そこで、濁水処理を行う装置を使うことによって、安全に川へ排水処理しています。では、どのようにして処理を行っているのかを以下に説明します。

濁水処理の流れは、まず写真右上の**油水分離槽**へ貯まった濁水を入れ、その中に含まれる油と水を分離します。そして分離した水の中の浮遊物を集めるために薬品を加え、写真左下の**高速沈殿装置**へ送り込み、水と浮遊物を分離させます。浮遊物を取り除いた水は、写真右下の**処理水槽**へ送り込まれ、濁度やpHに異常が確認された場合、前処理水槽へ戻され、再浄化が行われます。濁度やpHに異常がなければそのまま川へ放流され、一部の水は工事用水として再利用しています。ちなみに現在は、コンクリート打設を行っていないため、主に掘削に伴う湧水や法面工事の濁水、雨水等処理しています。



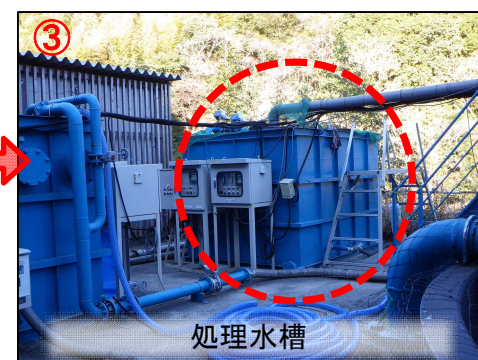
濁水処理設備遠景写真



油水分離槽



高速沈殿装置



処理水槽





西地橋架替工事の施工状況

先号でお知らせした西地橋の架替工事は、右下写真のとおり右岸側の護岸の取壊しを行い、12月末で右岸側の橋台の施工が完了しました。現在は護岸工の実施と同時に左岸側の橋台施工の準備にも取りかかっています。施工方法は、家屋への掘削の影響を少なくするために中央下写真のように仮設矢板を圧入機で施工します。十分な安全対策が実施された後に橋台の施工を行います。

引き続き近隣住民の方にはご迷惑をおかけしますが、何卒ご協力をよろしくお願い致します。



護岸の取壊し状況



クレーンでの仮設矢板吊り上げ



圧入機を使用した仮設矢板施工



右岸側橋台の施工状況



芸西村の史跡紹介【第28弾】

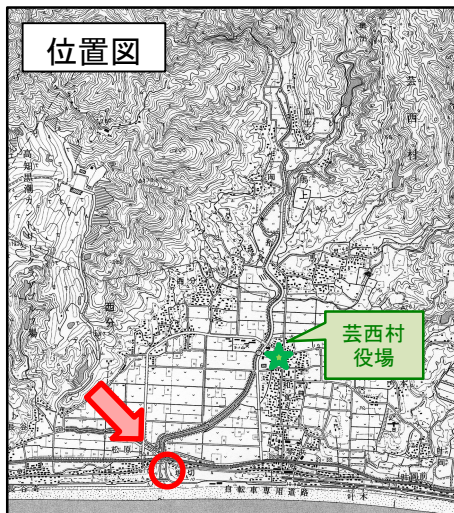
かいどう む じぞう 《街道の向かい地蔵》

昔の和食川には橋がなく、川を渡っている途中で流される人もいました。江戸時代のいつのころか、亡くなった人々の成仏と旅人の安全を願って、お地蔵様が両岸に向き合うように建てられました。この2体のお地蔵様は、向かい地蔵とも見合い地蔵とも言われています。かつては安田の姉の家へ行く坂本龍馬も、お城下へ行く中岡慎太郎も袴の裾を上げて川を渡っていたと考えると感慨深いものがあります。

明治二十年代になって、北の方に橋が架かり、その長い役目を終えました。お地蔵様が長い年月、街道、新旧国道、鉄道など時代の移り変わりを眺めてこられたように、ここ堀切は歴史を感じさせる場所になっています。

年末年始には寒波が到来しましたが、お地蔵さんも写真のとおり赤い毛糸の帽子を被って、防寒対策はばっちりでした！

く え しょうがっこう
次回は、「久重小学校」です。



位置図

芸西村
役場



和食川右岸側のお地蔵様



和食川左岸側のお地蔵様



次回の発行時期は、3月末を予定しています！